



しののめYMCAこども園 園だより

2019年度7月号

発行者：こども園園長 堀江和広

聖句 「互いに愛し合いなさい」

わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。

これがわたしの掟である。

7月聖句 「まことの光が輝いているからです」 ヨハネの手紙Ⅰ2章8節

幼い子どもたちが犠牲になる事件や事故が、多くなってきたように感じています。先日も小学生が犠牲になる事件が起きました。同じ学校関係に携わる者として、そのような報道がなされる度に心を痛めています。

学校関係者は毎日、『今日も元気に登園して欲しい』『怪我をしないで過ごして欲しい』『事故や事件に巻き込まれないで欲しい』『笑顔で帰宅して欲しい』…と願っています。私も毎日、そう思いながら園児たちを迎え、そして見送っています。この思いは私だけでなく、どこの園も学校も同様なのではないのでしょうか。

安全は他者に任せるのではなく、自ら守るものだと思います。然しながら安全を確保していても、今回のように予測できず、想定外の状況になった場合、園児たちを『守る』手立てや対策は、今まで以上に考えておかななくてはならないと痛切に感じました。

犯人が逮捕されて、その犯人像が明らかにされていく課程で、『ひきこもり』という言葉も数多く耳にするようになりました。『ひきこもり』とは、幼い時から、また大人になってから、両親や友人等との交わりを避け、社会的参加をしない状態が続く事と示されています。その原因は多々あるようですが、成長期でのつまづきや挫折、またその事による不登校や対人恐怖症等が原因と言われています。

どんなに私たちを取り巻く環境や生活が進化し進歩しても、社会生活は人との関係で成り立っていくものです。そこにはコミュニケーションが必要で、「言葉」を通してお互いの気持ちや、感情を受け止める事が大切です。そのやりとりは上手く受け止められたり、また時に誤解を招いたり、不信感を抱かれたりと、思い通りにならない事もあります。それゆえ、会話に創意工夫がなされていくものだと思います。この時期だからこそ、家族や友だち、そして沢山のひととお話する事の楽しさや喜び、難しさを体験させていきたいと、改めて強く感じます。

今回の事件で命を落とされた方々に、謹んで哀悼の意を表します。

園長 堀江 和広